

⑫ UK IKBS Programmes

T.E.H.Walker (Information Engineering Directorate, 英国)

発表要旨

IKBS (知的知識ベースシステム) は仕事を行なうために知識を応用するシステムと定義される。このプロジェクトが始まった頃はエキスパートは殆ど大学にあり、Alveyのプログラムは大学で行なわれなくてはならなかった。このプログラムの目的はUKの大学の再活性化、強化、及び産業に技術を与えるというものであった。

AlveyのIKBSプログラムは1983年から開始され、3つの要素よりなる。それは

- 研究・開発……3-4年で商品化出来るものを作る。
- 周知・宣伝……IKBSを使いそうな人に広くその機能を教え、知らせる。
- 援助……ソフトウェア相互交換のための共通枠組みと標準の開発である。

研究としてはALFEX, ARIES, DAPES, EMEX, PLANIT, QSES, PESCU, TRACE, WEISCがあり、それぞれ自己負担は余りなく、自分の産業にあったエキスパート・システムを作成できる。

これからのIKBMはその技術をソフトウェア工学、人間的要素と統合し、その方法を産業化することを目指す。

質疑応答

質問：前の二件と較べると商業化アプリケーションの傾向があるように思えたがそれで良いか？

回答：費用の1/2を出している、企業の目的を反映出来るという点ではESPRITと似ている。ヨーロッパのプログラムは大変大きくなっているが、国家ベースのプログラムは大きくなる必要はない。ヨーロッパに於いてはヨーロッパのプロジェクトと国家ベースのプロジェクトが丁度良いバランスを保っている。

質問：ヨーロッパの国々は近々統合化されるが、Alveyプロジェクトはどうなると思えるか？

回答：8ヶ国もの国々が一緒にプロジェクトを行なうのは大変難しい。国家の文化的産業的構造を利用できる国家ベースの小さな企業を集めて行なうプロジェクトの方が取りまとめ等が楽である。